其の原動力と爲す。（以上）

製鐵界の前途

財界の動搖に伴ひ本邦の製鐵業の如きは鐵價の暴落と共に著しく悲觀されつゝあるも果して爾く悲觀すべきものなるや否や、前途は寧ろ津々たるものあり、若し夫れ國内の需給關係を見るに銑鐵の産額は大正七年に於て僅に約七十萬噸、同八年に於て八十八萬噸を計上さるゝに過ぎず、一方需要は頗る旺盛を極め居るの現狀にあり、殊に近く海軍の大擴張に伴ひ鐵材の需要は一層切なるものある可く、英國に於ては約七百萬噸の銑鐵を産し居るも造船計畫に對する必要上輸出を制限し居るの實狀にあるを以て一に米國より輸入せざる可からざるなり。

而して米國は年々約三千五百萬噸の銑鐵を産するも、昨年來の勞働問題にて昨今著しく生産減少し、加ふるに國内に於ては戰後經營として鐵道の敷設完成に努むる傍ら非常なる勢ひを以て造船に意を注ぎつゝあるを以て需要頗る多く、爲めに本年二月の候に入りて銑鐵一噸に付約一弗の値上を見たる程なり、故に決して充分の輸出能力を有し居らず從つて本邦より輸入を仰がんとするに際しても國内の市價より採算するときは決して豫想し居る如き低廉なるものとは思惟せられず、一方歐洲各國に於ては戰後の産業恢復に意を用ひ今や鐵材の供給は彼等の痛切に望む處にして將來鐵材の需要は一層多きを加ふるは敢て言を俟たざる處なり、此の如く世界の大勢を見るも鐵材の需給關係は極めて逼迫し居るを以て本邦に於ても當業者は如何にして多産すべきかに意を用ゐ鋭意製鐵業の改良、發展を圖り以て文明の利器たる材料の供給に努むるこそ當業者の責務と云はざる可からず、試みに大正十一年より大正十三年に至る世界各國の人口に比例して各國一人當りの鐵消費量を見る時は獨逸は百四十八キログラム、米國は二百九十六キログラム、英國は百四十キログラムを示せるに、我日本に於ては僅に廿二キログラムに過ぎざる程なり、之を以ても我國人が鐵材の消費に於て下位にあるを察知するを得べし。

之を要するに文明國並に工業の發達進歩せる國程鐵材を消費するものにして、我國の如きは如何に鐵材應用に幼稚なるかを知る可く將來は益々國運の發達と共に其消費量を增加す可きは火を觀るよりも明かなり、製鐵業の前途は洋々として海の如し、決して財界の動搖に恐怖する事なく益々大規模の事業を起し以て時代の要求に應ず可きなり。